

教育は人づくりの原点

文学部新聞学科教授

鈴木 雄雅（勤続25年）



一九七一年春、新入生（者）がなぜ新聞学科を文としてキャンパスに足を踏み入れてから四十年近くになります。縁あって四年から学院に奉職して二十五年、四半世紀経ちました。最近は学生から「東京のお父さん」と呼ばれることに抵抗もなくなり、教えた子供が孫となり、教えた子供が孫になりました。最近は学生から「東京のお父さん」と呼ばれることに抵抗もなくなり、教えた子供が孫となり、教えた子供が孫になりました。

最初の十年は突っ走りました。所属する新聞学科の開設に尽力された小野秀雄名譽教授（日本新聞学会会員）現日本マス・コミュニケーション学会創立二ヶ一年代の学科創立五

五十年史の編集（〇三年）、毎年開催される日韓国際シンポジウムや学会事務局のお手伝いなど、春原昭彦名譽教授、武市英雄名譽教授の下、学部（School of Humanities）に置いた

本学代表を意識しつつ、育てられたことに感謝しかが分かるようになつたのはちょうどその頃だつております。

大学院新聞学専攻の設立に尽力された川中康弘教授、小糸忠吾教授らを引き継ぎ、設置以来三百人以上にのぼる多士済々な修了者をほぼ知るいと感じられるようになりたと思います。

院生時代の学科創立五十周年記念誌（八一年）改めて思うところです。

最初の十年は突っ走り、「ゼブン・イレブン」とや『回想 小野秀雄夫妻』（八五年）の編集に始ま

た。所属する新聞学科の開設に尽力された小野秀

がら、主要校の一角を占める学会活動にも参加す

る機会を与えられるよう

なりました。学会創立す。